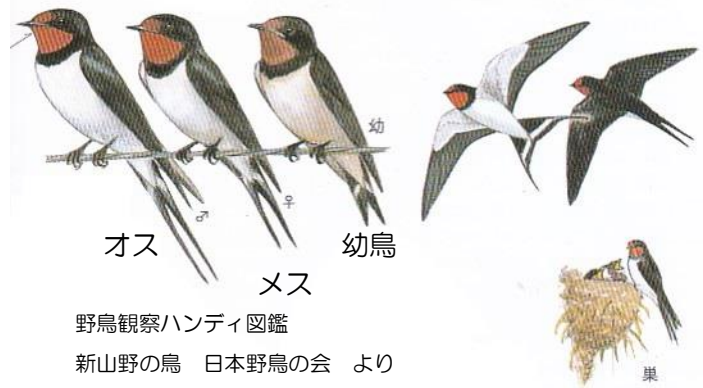


「春ツバメ」がやってきた！

3月24日の修了式の朝、ツーピー・ツツピー…とシジュウカラのさえずりが聞こえたので空を見上げると、電線に尾がスーッと伸びた鳥の影があり、双眼鏡と取り出して見てみると、ツバメが一羽とまっていた。今年初めての観察です。清瀬にやって来た第一号かもしれませんね。ツバメは、3月下旬ころから4月にかけて、東南アジアからやってくる渡り鳥で、春から夏にかけて日本で過ごして、繁殖をする夏鳥ですので、冬鳥として北の国からやって来て、春に帰ってしますツグミやジョウビタキとは逆ですね。ツグミなどはまだ日本にいますので、今時分はちょうど冬鳥と夏鳥の両方をみることができます。

●ツバメ スズメ目ツバメ科 《撮影日/場所：R3,3,24 野塩橋》



体の大きさは17cmほどでスズメくらいです。「のど」と「おでこ」が赤く、「お腹」が白、黒い首輪をしていて、何より尾の形が目立ちます。長くて、深い切れ込みになっている二股です。雄と雌でカラーリングの違いはほとんどなく、尾が長いのがオス、短いのがメスです。清瀬で見かけたのは、たぶんオスです。羽を広げると30cmほどもあり、細い体と合わせて飛行能力は高く、急旋回はお手のもので、飛んでる昆虫などを捕まえてエサとしています。歩行は苦手で、地面などを歩いている様子は見かけません。水も水面ギリギリを飛行しながら飲むと言われています。

春から夏に、フィリピンやマレー半島などの東南アジアからやってくる夏鳥で、日本で巣を作って子育てをして、冬は暖かい南の国で過ごす渡り鳥です。小さい体で、3~5000kmも旅行をするのですからすごい体力ですね。

繁殖期の雄は、チュチュビチュチビジクジクビーと最後が濁るようなさえずり(song)で雌にアピールをします、日本語では「つちくって、むしくって、くちしぶい」などと表現されます。家の軒下などに土と枯れ草で巣を作って雛を育てます。去年は、秋津駅の南口交番の軒下に巣を作っていましたので今年も楽しみです。

ちなみに、中華料理で使われる「ツバメの巣」は、ツバメとは違う種類のアマツバメ目アマツバメ科アナツバメなどの巣で、泥や枯草で作るツバメの巣ではありません。

【関連動画】

①ツバメの暮らし春～夏 1分3秒 NHK for School
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005300831_00000

②ツバメが春にあらわれるのは？ 2分45秒 NHK for School
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005301765_00000

①



②

